

小中学生の夏休み特集

ぼくの町

 <p>第5向陽小学校(1,194人)</p>	 <p>校章</p> <p>学校名(児童数・生徒数) 昭和57年5月1日現在</p>
 <p>第6向陽小学校(668人)</p>	 <p>向陽小学校(1,154人)</p>
 <p>勝山中学校(1,158人)</p>	 <p>第2向陽小学校(826人)</p>
 <p>西ノ岡中学校(631人)</p>	 <p>第3向陽小学校(986人)</p>
 <p>寺戸中学校(740人)</p>	 <p>第4向陽小学校(1,183人)</p>



●内日神社—向日町南山—
718年に建てられ、火雷神などをまつる神社、現在の本殿は1418年に建てられたもので、国の重要文化財です。



●乙訓郡街—勝山中学校の発掘調査風景—
奈良時代の乙訓郡(いまの向日市・長岡京市)を治める役所です。郡司がいに集められました。勝山中学の付近からは、の建物跡がみつかっています。

●聖朝十二銭
奈良時代から平安時代にかけて、政府がつぎつぎにつくった12種類の銅銭です。長岡京時代には、和銅開珎・万葉通宝・神功開宝の3種類が使われていました。新しい銭が出ると、古い銭の価値が下って、人々は物価高に苦しみました。



●鶴院の木簡—鶴冠井町の市道工事で出土—一九八〇年—
木簡とは、木札に字を書いたもので、古代では紙と同じように用いられました。写真は「鶴院」と書かれた木簡です。鶴院は、天皇と貴族たちの宴会場で、現在の鳥坂(御膳所)付近にあったといわれています。



●持統寺木造阿彌陀如来立像—上植野町北小路—
持統のお寺である持統寺に伝わる鎌倉時代の典型的な仏像です。神々の本尊は釈迦如来が普通で、このような阿彌陀如来をまつっているのは、この寺が一時浄土宗であったことによるのでしょう。

今も残る 物集女賊の外濠

鎌倉時代、承久の乱(じょうきゅうのらん)で一時丹波(たんば)にのがれていた向日神社の宮司・六人部氏(むとべし)も百年後には再びこの地にもどり、当市の南部は向日神社の宮座(みやざ)を中心に発展します。

一四二二年には、現在もある本殿(三間社流造・さんげんしゃながれづくり)が造られるなどその勢力は強いものでした。

また、真経寺は日像上人(にちざうしょうにん)との法論の末、日蓮宗となり、鶴冠井法華(かえではっけ)と称されるほど強い勢力をこの地にうえつけます。

一方北部には、土師氏(はじし)の系統をひくといわれる物集女氏が、物集女町中条に城をかまえたといわれ、応仁の乱(一四六七)には、細川の東軍につき、西軍についた鶴冠井、勝龍寺(しょうりゅうじ)勢と戦ったとされています。しかし、十六世紀後半に上洛した織田信長に滅ぼされ、今では外濠や土塁を残すのみです。

政治・経済・文化の中心として栄える

江戸時代に入って寛文年間には、南北真経寺の建物が再建され、西国街道(さいごくかいどう)沿いには、今も残る富永屋(とみながや)、紅葉屋(もみじや)、花久(はなきゅう)といった店がにぎわっていました。

文化の面でも、幕末に国文学者・六人部是香(むとべよしか)が出、坂本龍馬や中岡慎太郎などの志士が集まったといわれます。

向日市はまさに乙訓の政治・経済・文化の中心地として栄えました。

「こしでちようご」 市制十周年

明治二十二年に市町村制が実施され、一町五か村(向日町・物集女村・寺戸村・森本村・鶴冠井村・上植野村)が合併し、向日町が誕生しました。

そして、昭和三十年代から人口が急激に増えはじめ、昭和四十七年十月一日に「向日市」になり、ことしは、市になってちょうど十年目にあたります。